

令和6年度取組状況

ものづくり工学科 一般科目 助教 福田浩之

取 組 状 況	
教育	「日本語演習」、「日本語表現法Ⅱ」とともに、改定後のシラバスに即して授業を展開できた。また、「文章表現法」では、スライド資料の作成について、学生が授業外で作成した資料をもとに指導するなど、予定より多くのトピックを扱い、アカデミックな研究において求められるコミュニケーション力を総合的に培う授業を行うことができた。「国語Ⅲ」では、新規に取り扱う教材も含め、教材相互の関連を意識させる授業づくりを行った。 また、カリキュラム上の授業とは別に、長岡技術科学大学の編入学試験を受験する5年生の希望者向けに、国語の入試対策の講座を実施した。面接試験の練習などの個別相談も含め、学生の進路決定にも貢献することができた。 このほか、1年4組の担任として、担当の学級・学年を中心に生活指導や学習支援を行った。また、吹奏楽部の顧問として運営上の指導や引率を行った。
研究	スタートアップ研究「戦後の俳句における近代の詩論の受容」については、資料の収集を進め、継続して研究を進めている。 兼務先の東京都立大学で後期に開講した「表象文化論特殊講義」の授業でも、同研究の成果を活かしつつ、古今東西の詩論を、詩に限らずさまざまな文化事象を論じるための手がかりとして活用する手立てについて15回にわたり講義した。文学、人類学、法学、理学など多様な分野を専攻する学生が受講するなかで、それぞれのニーズに応えるかたちで、研究成果を還元することができた。学生たちの反応のなかからインスピレーションも得られたので、今後の研究に活かしたい。
社会貢献	OPC講座「中学生のための小論文講座」の講師として、昨年に使用した教材の改善を図りつつ、地域の中学生に小論文作成の際の基礎的な技術・知識について講義したうえで、小論文を実際に作成してもらう機会を設けた。 兼務先の東京都立大学での授業においても、上述のとおり成果を挙げているほか、12月19日には武蔵野大学文学部日本文学文化学科のゼミにゲスト講師として登壇し、俳句の創作に関する授業を実施した。 また、俳人(俳号:福田若之)として『文藝春秋』2025年4月号に作品6句、『俳壇』2024年11月号にエッセイを寄稿するなど、作品や文章を雑誌等に複数発表したほか、2024年9月22日にNHKEテレで放映された「NHK俳句」に出演し作品の合評を行うといった活動を通じて、研究によって得られた知見や、それらを活用して得られた成果を広く社会に発信することに努めた。